

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1072100454		
法人名	有限会社 か し わ		
事業所名	グループ ホーム み さ と		
所在地	群馬県高崎市箕郷町柏木沢620-1		
自己評価作成日	平成23年8月15日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigo-joho.pref.gunma.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人群馬社会福祉評価機構		
所在地	群馬県前橋市新前橋町13-12		
訪問調査日	平成23年9月15日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> * 利用者同士の関わりが多く、良い関係が出来ている。 * レクリエーションの内容が豊富であり、それに対し利用者が意欲的に取り組んでいる(ラジオ体操・展示物の製作・ゲーム・歌等) * ボランティアさんの受け入れで家族共々行事を楽しんでいる(握り寿司・押し花教室・手打ちそば・詩吟・日本舞踊・子供音楽教室の歌・演奏等) * スタッフが利用者にもいつも真剣に対応している。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>「利用者がその人らしく生活ができるように、特技や役割や楽しみごとがある生活ができるように」という理念を実践している。家族との食事や墓参り、馴染みの人の見舞いなどが継続できるように支え、力に応じて出来ることをしてもらい、行ったことには「ありがとう」と職員が言葉で感謝を伝えることで、利用者は自分の出番と思い自信に繋がっている。また、地域とのつながりも大切にし、自治会や商工会などに加入している。ボランティアの来訪も多く、押し花作りや蕎麦のそうめん流しなど工夫をこらし、今度は何をしよう職員も一緒に楽しみにしている。事業所と家族の関係の中では、各種料金設定なども家族に意見を求め、一緒に考えて決定するなど、家族とともに支えあうことの大切さを十分理解し、職員全員で具現化に努力している。入居者にとってより良いケアを考える運営推進会議に本人である入居者と家族と一緒に参加するなど、入居者一人ひとりを尊重した支援が行われている。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが ○ 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「心にゆとりのある、その人らしい生活が地域の中で送れること」「趣味や特技を活かし役割や楽しみのある生活ができる」を理念に掲げて実践している。	理念の見直しを行い修正している。グループホームとして、まとまりとともに自由度アップを図り、その人らしい生活実現に取り組んでいる。理念の唱和とともに「具体的にどうということがあるだろう」と朝夕の申し送り時に職員で話し合い、ケース記録に記載するなど実践に取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議では介護相談員・民生委員・自治会区長の出席がある。敬老会ではポスターを作り、自治会より配布して頂き参加を呼びかけた。	自治会に加入し、ホームの行事を回覧し地域の参加を呼びかけている。東日本震災の際は、心配した近所の人から電話があったり、駆けつけてくれた方もあった。また、箕郷商工会に入会し、一層地域に根ざした施設づくりを目指すなど、ホームが閉鎖的でないことが家庭生活の延長に結びつくと考え努力を重ねている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	電話での利用の問い合わせでは相談に応じたり、施設見学は随時行っており、地域に少しでも貢献できるよう努力している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年6回の運営推進会議では、行事報告、利用者の状況報告等を行い、こちらで用意した議題を元に意見を出して頂きそれをサービスに活かしている。	会議では特に地域の意見を広く聞くことを重点に、年6回以上は開催したいとしている。会議には地域の関係者とともに、入居者・家族も参加しホームの各種料金改定までオープンに話し合われている。「防災頭巾兼用の座布団使用」等のアドバイスなど支援に活かされた取り組みが行われている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市役所の支所との連絡を密にしている。運営推進会議、行事の出席を通し、事業所の取り組みを伝えている。又支所の研修会等にも参加している。	運営推進会議の議事録を届けたり、支所の担当者が変わる時には事業所に挨拶に来たりと連携を深めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束については入所時に説明している。門の施錠はスライド式を取り付け鍵と言う程のものは使用せず、見守りをする事で安全に過ごせるよう取り組んでいる。	安全の確保が、本人の苦痛を伴えば、かえってマイナスの結果となることをケアの基本とし、入居時にも家族等には身体拘束をしないことの意味を説明している。言葉の拘束も含めて、利用者の動きを狭めることは全て拘束と捉え、その人らしさを大切にしながら安全に過ごせるよう取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	利用者に対する態度は勿論のこと言葉遣いについても注意を払い徹底した防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者は苦情解決セミナーに参加し、運営推進会議及び契約時には、その制度についての活用を説明している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の祭には契約書を元に細かく説明を行い、安心した上で締結して頂いている。又改定時には(H22・4居室料の改定)運営推進会議で説明し一人ずつ承諾書を交わしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議は利用者も全員参加(自席で)して頂いている。会議での家族等の意見や面会時の何げない会話の中での要望は参考にしてている。	「どんなケアも家族の存在にはかなわないが、家族の出来ないことも出来る」と日々の支援に取り組んでいる。家族には、あらゆる機会に意見や苦情等を出しやすいよう心がけている。日頃の本人の状況を家族と話し合い、本人の何気ない動作も見逃さず意向等の把握に努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	懇親会の席を設け、リラックスした中での職員の意見等に耳を傾けたり、日頃の業務の申し送り時に提案・意見を聞き検討した上でとり入れている。	「私生活がきちんと出来ない職員に、いいケアは出来ない」ということで、年1回懇親会を開き、リラックスした中で色々な話ができるようにしている。日頃の業務の中では、申し送りの後に話し合いをして、意見や提案を出してもらい業務に反映している。また、キャリアに応じて資格取得を促している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	就業に支障なきよう「ゆとり」の空間を作るよう努力している。人事については「人」を生かし大切にしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修を受ける機会を増やし見聞を広める努力をしている。就学の機会も尊重している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者、異業種間を問わず交流を心がけている。互いに良い刺激を与え合うよう努力している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人も含めた施設見学をして頂くことから始まり、可能であれば体験入所して、本人の感想を聞き不安なくサービスを開始するよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の申し出、本人に対する思いや、不安、施設への要望を時間を十分にとり傾聴している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族の話、本人のADLの状況及びサマリーを総合し、必要としているサービスが可能かどうか判断している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人が当施設が自分の生活の場であると認識するよう、掃除、洗濯物たたみ、食事等の後片付け等参加して頂いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時には本人も交え近況報告、受診後にはその報告、主治医よりの薬の変更等に於いても必ず相談して決定している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族、親類、知人はいつも気軽に来所出来るよう家族を通して声掛している。又電話や手紙で本人と家族、知人との関係を継続出来るようにも取り計っている。	馴染みの場や人との出会いは、その時一瞬でも活躍していた自分に立ち戻り、意欲的になっているので、行きつけの美容院を利用したり、お盆には家族と墓参りをして知り合いに会ったり、病院へ友達のお見舞いに行き励ますなど、継続的な交流ができるように支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクリエーション・製作・手伝い作業を通して利用者同士の関わりを多くしている。入所した利用者は孤立することのない様又個性も見極め良い関係づくりを支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も時々家族に連絡をし近況を伺ったり、移った施設に面会に行っている。家族も退所後に来所することもある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者とのコミュニケーションを多くする事を常に心掛けると共に利用者同士の会話にも耳を傾けている。それにより本人の望む暮らしに少しでも添えるようにしている。	思いや意向の把握には、利用者の気持ちを大切に無理強いない、待つこと、受け止めることに努めている。できることはしてもらい、行った後には職員はお礼を言って、役に立っているという思いや生活の意欲を持てるよう支援している。言葉の出ない入居者には、筆談で意向を聞いている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前の利用サービス施設より情報提供を頂くと共に家族より本人の生活歴等を伺い把握している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	食事量、排泄量のチェック、バイタル測定をしその日の心身の状態を確認し行動を見守りしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人が現状を維持して過ごしていく為には、何が必要なのかを見極め、家族の意向、主治医、スタッフの意見を入れて介護計画を作成している。	家族の面会時には、状態報告をしながら意見を聞き計画に反映している。担当者会議で職員の意見を聞き介護計画を作成している。ケアプランを毎日の業務で活用し、ケース記録に結果や様子を記入している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活の様子はケース記録、日勤簿、夜勤簿に記録しており、非番の職員も共有し又記録したのを元に検討し介護計画を見直している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	グループホーム単独の施設であり認知症対応型共同生活介護のみの支援である。又利用者の要望があれば訪問マッサージの紹介はしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	箕郷梅林へ観梅に出掛けたり、近隣の農林大学の学園祭へ外出行事として行く等楽しんでいる。地域の商工会に今年度入会した。今後催し物に参加の予定である。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者及び家族の望むかかりつけ医を主治医としている。又協力医療機関として契約書を交わしている。	協力医療機関は緊急時対応で、ほとんどがかかりつけ医の受診を継続している。通院は家族が行っているが、家族の支援が困難な場合は職員が行い継続して受診できるようにしている。受診の際は、日頃の様子を伝えるためにバイタルチェック表を持参して職員が同行し、受診結果は「受診ノート」に詳細に記録し職員で共有している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職(夜勤)には、利用者の体調、行動等を伝え、その専門知識を通して意見を聞いている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院する場合には必ず同行し、施設での様子を情報提供し医療機関での生活がスムーズに送れるように協力している。又入院中はMSWや担当NSとの連携をとっている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に事業所の方針、出来る範囲を説明し更に家族の考えも伺っている。又利用者の状態の変化が生じた場合には連絡をとり、その後の対応を家族と共に考えている。	医療行為が必要な重篤な病気や終末期の場合は退所していただく方針で入居時に説明している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全職員が救急救命講座、ADL講習を受けて対応出来るよう備えている。防火管理者の講習にも順次受講している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の総合訓練(通報、避難、消火)を行っている。消防署、自治会、防災設備会社の立会いの元、全職員参加を基本として行っている。自動火災通報装置・スプリンクラーは設置済みである。	火災訓練に地域の方が見学にきてくれているなか、全職員参加で、夜間を想定するなどして実施している。利用者も消火器の取り扱いなどを一緒に行っている。備蓄のかんばんを9月1日の震災の日に食べ、また新規に補充している。	

自己	外部	項目	外部評価	
			自己評価 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	トイレの声かけ時等他者にあまり気付かれぬよう、さり気なく声かけ誘導している。記録、特記用紙にはイニシャルで記入している。	援助が必要なときも、まず本人のその時の気持ちを考えた支援が行われている。入れ歯をはずした顔が見られたくないや入浴時の更衣姿を他者に見られないようにカーテンを利用するなど、一人ひとりの気持ちを考えた対応がされている。個人の記録は事務所で保管し、守秘義務を徹底している。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	口数が少ない利用者には、特に声かけをし孤独感を感じさせない様、心がけ接している。	
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	さり気なくパズルやゲーム、本などテーブルに用意しておき、自主的に楽しんでもらったり、TV番組など一緒に選んだり、歌が好きな人にはCDをかけたりしている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	出張美容師により、本人の希望に沿った髪型、長さになっている。受診時には着替えをして身だしなみを整えている。	
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	旬の食材を取り入れ、栄養のバランスのとれた献立を提供している。週に1回は麺類の日を設け季節に適した物をだしている。	週4日食材配達業者の献立メニューであり、他は季節の食材を取り入れたり、利用者の希望やテレビを見ていて「おいしそう」と話している場を職員がとらえ提供したりするなど、食事が楽しめる支援をしている。利用者と職員と一緒に食事をし、味付けや量等をチェックしている。また、テレビをつけず音楽を流し会話も楽しんでいる。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取確認表にて1日3回各々の摂取量をチェックしており、食事の傾向や好み等を職員は把握している。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	人によっては、介助で歯間ブラシを使用し、毎食後、声かけ、見守りで口腔ケアを行っており、夜間は義歯を預り週1回義歯洗浄を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレ誘導は利用者に合った排泄のタイミングを見て行い、失禁ぱットのチェックをしたり、排泄時などは急がせずゆっくり時間をとるように支援している。	入居者が日々変化するなか、その日その時を大切に、常に快適に排泄できるような支援を心がけている。ホールや居室からトイレに歩いて行くこと全てを排泄の一連の流れととらえ、急がせずゆっくりと利用者の様子を見ながら支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	チェック表にて確認し、水分補給を充分にし、時にはオルゴ糖を利用したり、腹部マッサージをして対応している。主治医と相談して整腸剤や便秘薬を使用している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週2回の入浴は職員と利用者が唯一、一対一となれる場であり、リラックスして会話を楽しめるよう話しかけたり、湯の温度も個人の好みで楽しんでもらうように配慮している。	入浴時は、着替えの清潔感や着たいものを着る楽しみを入居者は感じている。季節のお風呂(菖蒲やゆずなど)を楽しみながら、職員と1対1でゆっくり話ができる時間にするなど、入浴の負担感等を楽しい時間にする支援が行われている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	室温や照明にも気を配り、隔週でリネン類、洗濯、布団干しを行い安眠出来るよう心がけている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員が管理し、誤薬のないよう、日付け、氏名を確認した上で服用している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	手伝っている事で役に立っていると思ってもらえる様、こちらも感謝の気持ちをその都度伝えている。個性を大切に意欲の向上に努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	その時の様子で近隣への散歩を行ったり、車で季節の花を見学に行ったり、温泉施設等での食事をしながらゆっくり過ごす機会を設けている。	入居者の状態や有する力、希望などその時々状況に応じて通院時に遠回りしたり、梅や菊など季節の花を見に出かけたり、近隣の農林大学の学園祭に出かけたりしている。	以前には道路を挟んだ隣家に時々行っていたとのことであるが、事業所の回りを散歩したりなど、日常的な外出支援が更に支援できることを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個人のお金は預っておらず、必要な物を購入した時は利用料支払時に一緒に精算していただく。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の申し出により電話を利用出来るよう取り計っている。手紙や年賀状もこちらで用意し利用者の自筆により出している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	外出時に写した写真、季節毎の作品や歌詞を壁に貼り、楽しんでもらったり、ホールから見える所に植物や花を植え生育を楽しんでいる。	居心地が良いとは、本人にとって住みやすく清潔な環境と考えている。台所に面したホールは明るく広々しており、天井には空が一面に描かれ、窓から見える外の景色は自然をそのまま感じることができる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	畳の間にこたつがありTVを観たりソファでリラックスして過ごせる様にしている。気の合った利用者さん同士の雑談の場でもある。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には使い慣れたタンスや衣裳ケースが持ち込まれ、壁には好みの写真、カレンダー、ぬいぐるみ等を飾って安心して過ごせる居室となっている。	居室には、使い慣れたタンスや衣裳ケースが持ち込まれ、壁には好みの写真・カレンダー・ぬいぐるみ等を飾って安心して過ごせる居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室のネームプレート、ホールの日付プレートや献立ボードを見やすい位置、目線に配置し、ソファで気分転換や休息出来るよう配慮している。		